
ONE PIECEの世界に転生

鷹の爪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ONE PIECEの世界に転生

【Nコード】

N1436Z

【作者名】

鷹の爪

【あらすじ】

主人公の翼は、

ある日、自分の書こうとしていた二次小説の主人公に転生する。

原作に大幅な介入はしません。

作者は初心者なので過度な期待をしないで下さい。

転生？

「あーあ 今日も疲れたなあー。」

ガチャッ

「ただいま。」

「お帰り。」

台所から母さんの声がする。

俺の名前は翼つばさ 高校3年生だ。
俺はこの物語の主人公なんだ。

「とか現実逃避してる場合じゃねえんだよなあ、
受験勉強しなきゃいけねーんだった。」

「ふうー 一段落ついたし休憩すっかな」

俺はベッドに散らばった漫画『ONE PIECE』ワンピースを適当に手に取り読み出した。

「やっぱりロブ・ルッチつええな。」

「ホントおもしれえよな。」

いいよなあ行ってみてえよワンピースの世界。

「月歩」ゲッポウとか「トリトリの実」の能力使ってノリノリで空とか飛び

てえなあ。

突然だが俺は今、二次ファンでワンピースの小説を書こうとしている。

あらすじはこんな感じ。

物語の主人公、ウインは「トリトリの実」モデル“鷹^{ホウ}？を食った鳥人間。

ウインはサイファーポールN0.9に入っていたが、ある時脱け出しお尋ね者になる。

そして海賊になるという話。

「六式^{ろくしき}」が使えて「トリトリの実」を食っているという。

見ての通り俺の夢を詰め込んだ感じの話だ。

あらすじ的なものは思いついたけど、

それから先が思いつかないんだよなあ。

この後どうすっかな………

「寝るか。」

そして俺はベッドに寝っころがり眠りについた。

夢の中

抽選会場のようだ。

ガラ ガラ ガラ ポロ

「おめでとう御座います。」

抽選結果は翼さんに決まりました。
貴方は常識的に考えたら普通は叶わない様な夢を一つ叶える権利を
得ました。

どうぞ有効にお使い下さい。」

俺は気付いた時にはこう答えていた。

「じゃあ、ウインになってみたい。」

「かしこまりました。」

乗った船は・・・

目が覚めると俺は知らない場所にいた。
少し揺れているから地震かと思っただら船の上のようだ。
それともう一つ俺の体はボロボロだった。

ガタン！！

後ろから人影。

「ん！？」

どすっ！！

「うっ！！」

しまった首に手刀を入れら

・・・ばたッ

「・・・」

その男は無言でウインを運んで行った。

数年後

え？早い？んなこと言ったら漫画だってそうだろうよ。
まア何があつたかは、お楽しみで。

俺は今、^{グランドライン}偉大なる航路航海？を航海している。と言つか迷子だ。
因みにもうどこまで行ってるのか知らないが原作は開始している。
まアだからこうやって海に出たんだけでも。
あつ重要な事を忘れてた、俺は今女だ。
目が覚めたら女になってた。
でもそのおかげで追われずに済んでいる。
名前もウインから前世？の名前、ツバサに変えた。

「で、どうするかな？」

この状況。

「ん？なんだ！急に暗く」

ガゴンっ！！！！

「うわアデカイ船？潰される！！」

バキっ！！！！

「うわァー！！」

海賊船の上に、この船の船長と思われる男が1人。

「フェツ フェツ フェツ。」

ガゴンっ！！！！

「ん？」

バキっ！！！！

「何だ？」

「うわァー!!」

「人の悲鳴？おまえ見てこい。」

「ウオ!!まかせとけ!!」

ザバーン!!

そう答えた魚人の男は海に跳び込んだ。

「ん、此処は？」

「フェツ フェツ フェツ 目覚めたか？
此処はフォクシー海賊団の船の上だ。」

「あんた誰？」

「おれの名はフォクシー!!この船の船長だ。」

「俺はツバサ、助けてくれてありがとう。」

「礼はいらねエ、お前おれの仲間にならねエk」「いやだ。」

ずー・・・ん

「・・・・・・・・・・そんなに即答しなくても・・・・・・・・」

「オヤビーン！！海賊船だ！！」

「ホントか！？ フェツ フェツ フェツ。」

そうするとフォクシーは出ていった。

「まさかフォクシーにお世話になるとは・・・」

しばらくして

ドン ドォーン！！

「始まったか。」

ツバサは窓から様子を確認する。

“キバガエル海賊団？？”と言うことはこの後ルフィ達と戦うんじゃない・・・

「よっしゃー！！ラッキー！！！！」

ガチャ

「お前見にいかないのか？試合始まるぞ。」

「おお、見に行く！！」

がや がや わー

「ホントにお祭り騒ぎだな。」

「おい其処の兄ちゃん、焼きそば食わねえか？」

「食べる食べる！！幾ら？」

言っ
てな
かつ
たけ
ど服
装は
男物
でさ
らし
巻い
てい
る。

試合終了後

「フェツ フェツ フェツ、今回も楽勝だったな。」

「いゃん オヤビンかつこよかったですよ。」

「そうか？フェツ フェツ フェツ、ん？」

あ、気付かれた。

「よオ、考え直してくれt」全然。」

ずー…ん

「………また即答………」

「オヤビン！！コラお前つオヤビンは傷つきやすいんだ！！」

フオクシーのことを宥めながら怒ってくるポルチエ。

「ぶ。ぶ。ぶ。つ！！ぶ。ぶ。ぶ。ぶ！！」

口を押さえて笑うハンバーグ。

何時ものことなんだな。

ん！？

「あっあれ。」

ツバサの指指す先には・・・

「おお、海賊船じゃねえか。」

しかも麦わら海賊団の・・・

「フェッ フェッ フェッ、今日はゲーム三昧だな。」

デービーバックファイト 妻わらの一味

ドン ドォーン!!

「ゲームを」

ウオオオオオ!!

「受諾した~~~~ア!!」

あ、始まった。

「見に行くか。」

「さーて野郎共っ!! 騒いじやいやん!!」

わー わー

「敗戦における3か条?を今から宣誓するわよ!!」

長いので以下省略。

一回戦「ドーナツレース」

「レディ~~~~イ」

パアア・ン!!!

「ドーナツ!!!」

ドドドドドオン

うわっ始まったよ、お邪魔攻撃。
相変わらずせこいな。

数十分後

「勝者!!!!キューティワゴン号!!!!」

「デイビーバックファイト一回戦を制したのは!!!!
我らがアイドルポルチエちゃ~~~~ん!!!!」

やっぱりノロノロビームせこいな、
なんか結果分かってても応援しちゃうね。

いやアゾロかつこいいい。

「男なら.....!!!!」

フンドシ絞めて、勝負を黙って見届ける!!!!」

だって男でも惚れちゃうね。て、いま俺女だった。

「ゲームを制したのはなんと・・・！！！！
麦わらのルフィ〜〜〜〜！！！！」

三回戦終了したな？
さて原作介入だア！！！！

「ルールだ、さア早エトコ選べ！！！！
誰が欲しいんだ！！！！」

「海賊旗をくれ！！！！」

「待つて！！！！」

「ん？お前誰だ？」

「俺はツバサ、連れてってくれないか！！！！」

「いいぞ。」

「うおアッサリOKするのかよ！！！！」
確かにウソップ正しい。

「何か気に入った。」

「えーっ!!お前、おれの所には入らねエのk「うん。」

ずー…ん

「……………また即答……………」

「ぶ。ぶ。ぶ。」

「勝者!!“ 麦わらの一味?!!!!”

デービーバックファイトこれにて閉会~~~~~!!!!”

わああああああ!!

デービーバックファイト 麦わらの一味(後書き)

こんな入り方です。
すみません。

青キジ登場

「ーやっぱお前ら・・・
今死んどくか。」ドン！！

「！！！！？」

俺たちは今海軍本部“大将？青キジと向き合っている。

そうだった、もうエニエスロビー編じゃん。

ブチブチ！！

青キジは近くの草を抜くと、

ガキイ・・・ン！！！！

「“アイスサーベル？”

能力で氷の剣に変えた。

「命取る気はなかったが・・・」

「・・・！！！！」

青キジはロビンを切りつけようとするが、
それをゾロが受け止めた。

ギイイ・・・ン！！！！

「！！！！」

ばっ！！「スライス切肉？」

其処へサンジが、

「シュート？」

蹴りを加えサーベルを手から放させた。
そしてルフィが突っ込んで来る。

「ゴムゴムの？オ」

その時サンジとゾロが掴まれ、

！！？「ウ！！！！」 「ん！！！！」

「フレット銃弾？オ！！！！」

「冷た！！」

パキ パキ パキ・・・腕や足を凍らされてしまった。

「うわ！！」

「ぐあア！！！！」

「おおあああつ！！！！」

これが海軍本部“大将？の力か・・・
やっぱり生で見るとスゲエな。

がばっ！！！！

「ロビン！！危ねエぞ逃げろ！！！！」

パキパキ・・

「ロビンちゃん！！！！！！！」

パキン！！

「・・・・・・・・！！！！！！」

「うわあああロビーン！！！！！！」

ドンッ！其処には凍らされたロビンが・・

「お前エ〜っ！！！！！！！！」

「わめくな・・・ちゃんと解凍すりやまだ生きてる。

ただし・・・体は割れ易くなってるんで気をつけろ、割れりや死ぬ。

」

「例えばこういつ風に砕いちまうと・・・」すう・・・

そう言いながら青キジは拳をふりかざす。

「ウウ！！！！やめろ！！！！！！」

「ロビン！！！！！！！！」

ブンッ！！！！ スカッ

「・・・・・・・・！！！！！！！！」

「ハア・・・あ・・・・・危ねエ！！！！」

間一髪でルフィがロビンを抱いて避けた。

ザッ・・・「！！！！」

安心していられるのもつかの間、青キジの足が迫る。

ばっ!! ぐしゃ!!!!

「ぐへ!!!!!!」

どどど「ギャーギャー!!!!」どどどど

間一髪で今度はウソップが抱き抱えて逃げ、代わりにルフィが踏まれた。

「.....!!」

「ウソップ!!!! チョッパー!!!!」

そのまま船に走れ!!!!

手当てしてロビンを助ける!!!!」

「わ!! わかった」

「行くぞ!!」

「待って!!」

「何だよ今急いでるん ！？」

「俺に乗れ!!」

其処には鷹がいた。

「お前、能力者だったのか!？」

「そんな事はどうでもいい、早く乗れ!!」

「お!!!! おっ!!!!」

「お陰さまで……」

「だいたいいいわ……ありがとう船医さん」

「そんな……嬉しくねーぞコノヤロー」

「嬉しそうだな。」

「そついやアロビン、ツバサが此処まで運んでくれたんだぜ。」

「そつだったの、ありがとうツバサさん。」

「そつだったのかア!!!」

「そついやアルフィ、コイツ能力者だったんだぜ!!」

「トリトリの実の？鳥人間!!!」

「そつだったのか!!!すんげエ!!!」

「まあね。」

「ロビンちゃん、何か……体のあつたまるもん作るうか!!!
食欲はあるか?」

「……じゃあ

コーヒーを頂ける?」

「喜んで」

「ツバサちゃんもなんか食べるか?」

流石だな、サンジ俺のこと女だって気付いてるよ。

「別にいいよ。」

「ん？珍しいな、お前がナミとロビン以外にサービスするの。」

「うるせエマリモ、レディにはサービスするのが礼儀だ。」

「『『『『え？ええええええ！？』』』』」

「『『『『女だったのか！！！！！』』』』」

「うん。」

「みんな気がつかなかったのか？」

「『『『『全然』』』』」

「チョッパーも気付いてたの？」

「うんにおいで。」

バシヤ バシヤ バシヤ

「………んん？？」

「何だありゃ………」

ゾロが何か見付けたみたいだ。

「ん？」

「カエルだ！！巨大カエルだ・・・！！！！」

青キジ登場（後書き）

丸写しみたいになってしまった。

介入するのが難しい。

しばらくこんなが続くかも。

キャラクター紹介（前書き）

1日3000PV驚きです

キャラクター紹介

翼つばさ

身長169cm

この物語の主人公。

自分の書こうとしていた小説の世界の主人公になってしまった。
原作知識はエニエスロビーまで。

ウイン(男)

身長186cm

ツバサ(女)

身長172cm

主人公の書こうとしていた小説の主人公。

元CP9の「六式」ろくしき使いで、

「トリトリの実」モデル“鷹”ホークを食べた鳥人間。

CP9から脱け出し逃走していた。

命からがら逃げて乗った船で気を失ってしまった。

目が覚め起きて見ると自分は女になっていた。

それを逆手にとり名前をウインからツバサに変え生活する。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1436z/>

ONE PIECEの世界に転生

2011年12月5日23時49分発行